



(第4号) 発行 千鷲会

千鷲会航空祭を支援

前夜夕食会、義援金募金活動など主催

千歳基地航空祭が八月七日、基地内で行われ猛暑にもかかわらず多くの観衆が航空ショーを楽しんだ。それに伴い、千鷲会は、航空祭前夜夕食会、航空祭会食、復興支援義援金募金活動等を実施した。

【航空祭前夜夕食会】市内のホテルで行われた夕食会では会員十二人が受付、接遇等を支援した。

【復興支援義援金募金活動】猛暑の中、会員十七人と千歳航空少年団員八人が野外売店

地区及びエプロン地区において九時、十一時、十三時の三回募金活動を展開した。千歳航空少年団員の元気な声に来場者から「頑張ってください」などの激励を受け、総額二十万六千八百三十三円を募金して頂いた。

【F-4ファントム退役式典】当日、会場エプロン地区では、千鷲会会員等が見守る中、345号機が飛行し降りてきたパイロットに朝倉会長が握手して労った。

その後、関係者による記念撮影等が行われた。

平成二十三年八月、千歳基地航空祭ではいつもの年と違った行事が行われた。

永い間、日本の空の守りを担ってきたF-4EJ改の一機が退役する式典である。十時前、そのファントムが二機のF-15を両脇に、三機の編隊で会場上空を飛行した後着陸した。

駐機場のブルーインパルスが展示してある北側に地上滑走してきて止まる。

345号機、今その全ての役割を終えて故郷に戻り、静かにエンジンが切られる。集まっていた三〇二飛行隊OB達が機を囲む。

降りてきたパイロットが朝倉千鷲会会長に敬礼して労いの言葉を受け、ガールスカウト二人

345号機、尾翼には鮮やかに尾白鷲のマークが浮かび上がっている。百里基地に所属する三〇二飛行隊の機である。三〇二飛行隊は千歳で誕生し、十一年の歳月北の守りを全うし、昭和六十年に沖縄、そして百里、と空を守る地域を替えてきた。

からそれぞれ花束を受ける。行軍冒頭の挨拶は無く、マイクによる司会のみで退役式典は進み、記念撮影をして行事は終わった。

345号機への思いは特に無いが、三〇二飛行隊新編にともない、最初の二機を百里から千歳に運んだ編隊員の一人として、

ファントム345号機の退役



会長から労いを受けるパイロット



航空祭会食の受付支援



前夜夕食会での受付支援



千鷲会会員と共に記念撮影



復興支援義援金募金活動



会長と懇談する被災招待者

千鷲会の会員数
(八月三十一日現在)

正会員 669名
賛助会員 16社
個人 14名

各紹介

新入会員

- ◎正会員
 - 山野 滋久 (特輸隊)
 - 狩集 貴尚 (3高群)
 - 松倉 美加 (6空団)
 - 柳本 義則 (特輸隊)
 - 桐澤 敬 (基群本)
 - 荒 壽男 (基群本)
 - ◎賛助会員
 - 平野 美緒 (札幌)
 - 物故会員
 - 田中 要吉 (桂木)
 - 佐藤 治巳 (長沼町)

投稿記事募集

会員皆様方の活動状況を掲載いたします。ボランティア、趣味、評などジャンルは問いません。自薦、他薦大歓迎です。

投稿先及び問合せ先
 埼玉 (42)0295
 国井 (28)4302
 芦田 (26)4053

平成23年度 定期総会・懇親会

新年度の定期総会が六月三日ベルクラシックリアンにおいて会員五十人出席のもと行われた。総会では、平成二十二年事業(行事)及び収支決算報告・平成二十三年事業(行事)及び収支予算案並びに役員改選が事務局から報告され、全会一致で承認された。総会後の懇親会には、一五八人(会員一〇九人、賛助会員十一人)が参加。新入会員の紹介などが行われ、楽しいひと時を過ごした。



新役員はつぎのとおり

- 会長 朝倉 範夫
- 副会長 野澤 邦彦
- 同 木内 将一
- 同 柏本 博明

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|------|-----|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-------|----|------|----|------|
| 監査 | 田爪 幸夫 | 事務局長 | 堀 哲 | 総務部長 | 白木 敏滋 | 部長 | 本郷 武男 | 部長 | 渡辺 孝典 | 部長 | 宮崎 光男 | 部長 | 福田 博志 | 部長 | 熊原 清二 | 部長 | 上根 秀昭 | 部長 | 坪倉 光也 | 部長 | 畑田 信也 | 部長 | 佐々木 眞司 | 部長 | 国井 勇治 | 部長 | 長尾 伸悦 | 部長 | 渥美 忠範 | 部長 | 中川 威 | 部長 | 芦田 威 |
|----|-------|------|-----|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-------|----|------|----|------|

樹木剪定作業

七月二十八日、炎天下のなか十一人の会員が、例年行事として航空祭前に行っている基地慰霊碑周辺の樹木剪定作業を行った。作業中、予



作業に精を出す会員達

想以上に気温が上がって夜勤明けの会員も汗を流しながら疲れも見せず頑張っていた。

トムラウシ山 登頂成功

愛好会七月の登山計画は、大雪山系トムラウシ山(二一四一m)で、七月十二日から十四日(二泊三日)一六人の参加者で決行しました。日勝峠を越えて新得町から道道七一八号線を北上するこゝで一時間、行動基点のトムラウシ温泉「東大雪荘」に着。早々の露天風呂でのくつろぎ。これとは別に、リーダーとサブ・リーダーは明日の天気情報の判断に苦慮がつづく。しかし、全員は明日早朝の登山に万全を期して態勢を整える。翌朝三時半に宿舎出発で登山口へ、登山開始は四時二七分、雨の中のスタートとなった。小雨状態の登山道を進み、カムイ天上からカムイサンケナイ川の谷へ下り、再びコマドリ沢の登りとなる。ここは、全面に雪渓が残り残雪を一步一歩踏みしめての登りとなった。二年前のこの七月、



参加者

- リーダー 川崎清吉
- サブリーダー 武田東助
- 渡辺英子・野澤瑛子・平野美緒・伊藤雅章・清水市太郎・富田康広・松坂政三・今井勤・梅木良男・中本守・野澤邦彦・渡辺孝典・坂井守次・吉岡敏博

東京の登山ツアー企画会社が計画し、八人も凍死者を出したあのトムラウシ縦走コース。今回は、これとはまったく逆行コースでトムラウシ山頂へ向かって進む。前トムラウシ平からナキウサギも出没する長いガレ場に入り、ケルンの尾根を越すとトムラウシ公園へ、これから再び雪渓を踏んでの登り。高山植物の花々に迎えられる。思わず立ち止まって見入る。エゾノツガザクラの可憐な姿やコマクサの葉の独特の色「粉白緑色」やキバナシヤクナゲの美しさなど。心なごませる天空の風景でした。トムラウシ頂上の下の岩場で、大休止後、一気に山頂を目指す。山頂は晴れて、私たちの登頂記念撮影中も、関西弁や東北なまりが耳をかすめ登山者で賑わっていた。

「山登り」かといいたい」という気持ちにさせられるのが、「山登り」かとい

復興支援義援金 日赤に寄託

朝倉会長と野澤副会長は八月十日、市社会福祉協議会を訪れ、千歳基地航空祭で行われた復興支援義援金活動で集まった義援金二十万六千八百三十三円を「被災された方のために役立つ



てくだささい」と日赤千歳市地区協賛委員会の沼田委員長に全額手渡した。

熊との遭遇を体験

支笏湖周辺は、風不死岳、水明郷にクマが生息しているといわれている。また食料となる「エゾシカ」も同地域には、群れている。私は山菜取りで、山に入ることが多く糞や爪痕を何度か見ましたが、今回は野生の熊との遭遇を体験しました。六月二十二日朝六時五分ごろ、道道支笏湖公園線で千歳から支笏湖に向かう途中、妻を同乗し車を運転中に対向車とすれ違った直後、前方十メートル位に道路を横断する熊を見つけて、急ブレーキをかけ、辛うじて衝突を回避した。(四メートル位の至近距離で停車した)成獣した熊で一メートル三十センチ位の大きさであり、横断中は私の車の方を睨んで、小走り道路から林の中へと消えた。後続車、対向車もなく、事故を起こす事がなく、ほっとしたが、心臓の鼓動の高まりは、しばらく元には戻らなかった。これから秋にかけて「茸狩り」の人を見受けるが、熊が一番行



匿名会員

いこと、また、自分の身の危険を知る事が大切である。その為には対策を考え「熊よけの鈴、熊よけスプレー、ラジオを鳴らす、複数で行き大声で話す等」熊に対して人間が「ここに居るぞ」ということを知らせることが必要となる。人間の存在を確認できたら、その場から離れていき、事故にはならないと思う。今回のこと、野生の熊は早朝に行動している事を体験として学びました。